



新年のごあいさつ

湯河原町議会議長

土屋 誠 一

明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

議長に就任し初めての新年を迎え、その重責に身も心も引き締まる思いですが、気持ちも新たに多くの課題に取り組んでいく所存でございます。

さて、昨年をふり返りますと、アメリカに端を発する「世界恐慌」以来の深刻な金融危機の影響を受け、わが国においても、経済の停滞を余儀なくされるなど、先行きの不透明感は依然として強く、地域経済は更に深刻度を増しております。

また、相次ぐ食の偽装問題の発覚により、安全・安心な食料の供給神話が崩れたこと、さらに6月には、「岩手・宮城内陸地震」が発生するなど、日本列島が地震の巣の上にあるということを再認識した年でもありました。

本町は、東海地震、南関東地震、神奈川県西部地震といった甚大な地震の被害が想定・危惧される地域であることなどから、湯河原町議会といたしましても、児童・生徒を取り巻く教育環境の整備について議会と行政が一体となって、広く検討を行うことが最重要であると考え、昨年6月定例会において、全議員で構成する「町立小中学校の教育環境整備の調査に関する特別委員会」を設置し、湯河原中学校の耐震化を中心議題として教育環境整備の一日も早い実現に向け、毎月審議を重ねております。

さらに、生徒の安心・安全が図られるよう、議会、行政、教育委員会が一体となって、耐震性のある元県立湯河原高等学校を仮校舎として借用することなどの有効活用について、同校を所有・管理する神奈川県に対し、要望してまいります。

そして、地域経済の活性化対策では、消費の低迷による売上げの減少は、観光地湯河原にとっても深

刻な問題であることから、地域商業の活性化に繋がる施策が急務であると考え、町が湯河原町商工会に助成し行った消費の増大を目的としたプレミアム商品券発行事業は、地域商業界の活力回復の起爆剤として、その効果が十分期待されるところであります。

また、低迷している観光産業の振興を図るため、現在、「観光戦略会議」において、短期、中期、長期的な視点から本町の観光のあり方をご検討いただいております。

いただいた意見や提案をもとに、幕山の梅、城山のあじさい、星ヶ山のさつき、池峯のもみじなど、「四季彩のまち・さがみの小京都 湯河原」の特色を生かし、「豊かな自然・観光資源」の更なる活用と、これら点在するスポットの回遊性を図るための整備の実現に向けて、私ども議会といたしましても、一層の努力を傾注していく所存であります。

今後、地方分権の推進に伴い、地方自治体が担う役割はますます増大し、町民の代表機関としての自治体の最終意思決定をあずかる議会の役割と責任は、格段に重くなるものと認識しております。

平成19年4月1日から施行いたしました「湯河原町議会基本条例」の基本理念に沿って、町民の皆様の期待と信託にこたえるため、常日頃から皆様と意見交換をし、要望を聴くなど、幅広い議会活動を展開し、湯河原町議会の更なる活性化や開かれた議会の実現を図ってまいりたいと思っております。

輝かしい新春にのぞみ、町民の皆様のご理解とご協力、ご支援をお願い申し上げますとともに、本年が、皆様にとって、明るく幸せで実りある年となりますようお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。